

校歌・校旗の制定

参考「開校100年記念誌」

校歌の制定（昭和26年11月）

戦後の昭和26年正月から、占領政策からの解放、独立への明るい希望が日本国民を生き生きとさせた。そうした中で、学校も新しい希望をもって昭和26年度の新学期を迎えた。当時、新制志木中学校は、開校後5年目を迎えており、当時の本校の校長が、その志木中学校長と相計り、町当局や学校後援会、PTAに呼びかけ、校歌・校旗の制定を計画した。校歌は、歌詞は下山 懋先生、作曲は信時 潔先生に依頼した。

作詞の下山 懋先生は、現地視察をくだされました。当時、校庭には大きな桜、学校の前あたりは麦畑、春には雲雀の自然な楽を聞くことができる環境でした。**小・中両校、同時にできあがり**、その年の11月5日、志木町民全体に呼びかけて、校歌の発表会を行ったのである。

校旗の制定（昭和27年3月）

校旗は、ゆずっていただいた仲町の町内旗を改造したもので昭和27年3月3日、校庭においてその寄贈式が行われた。デザインは、当時使っていた「志木」と毎年、入学式の頃**爛漫と咲き誇る志木小の校庭の桜の徽章（校章）**を中心にして校歌に詠み込まれた**麦の穂**をあしらったものである。その後、市制施行とともに校名が**志木市立志木小学校**と改められ、校旗が新調されたが、その間の20年間、志木小の校旗として親しまれてきた。

校章（爛漫と咲き誇る志木小の校庭の桜）



昭和27年当時の校旗



現在の校旗(昭和47年3月)

